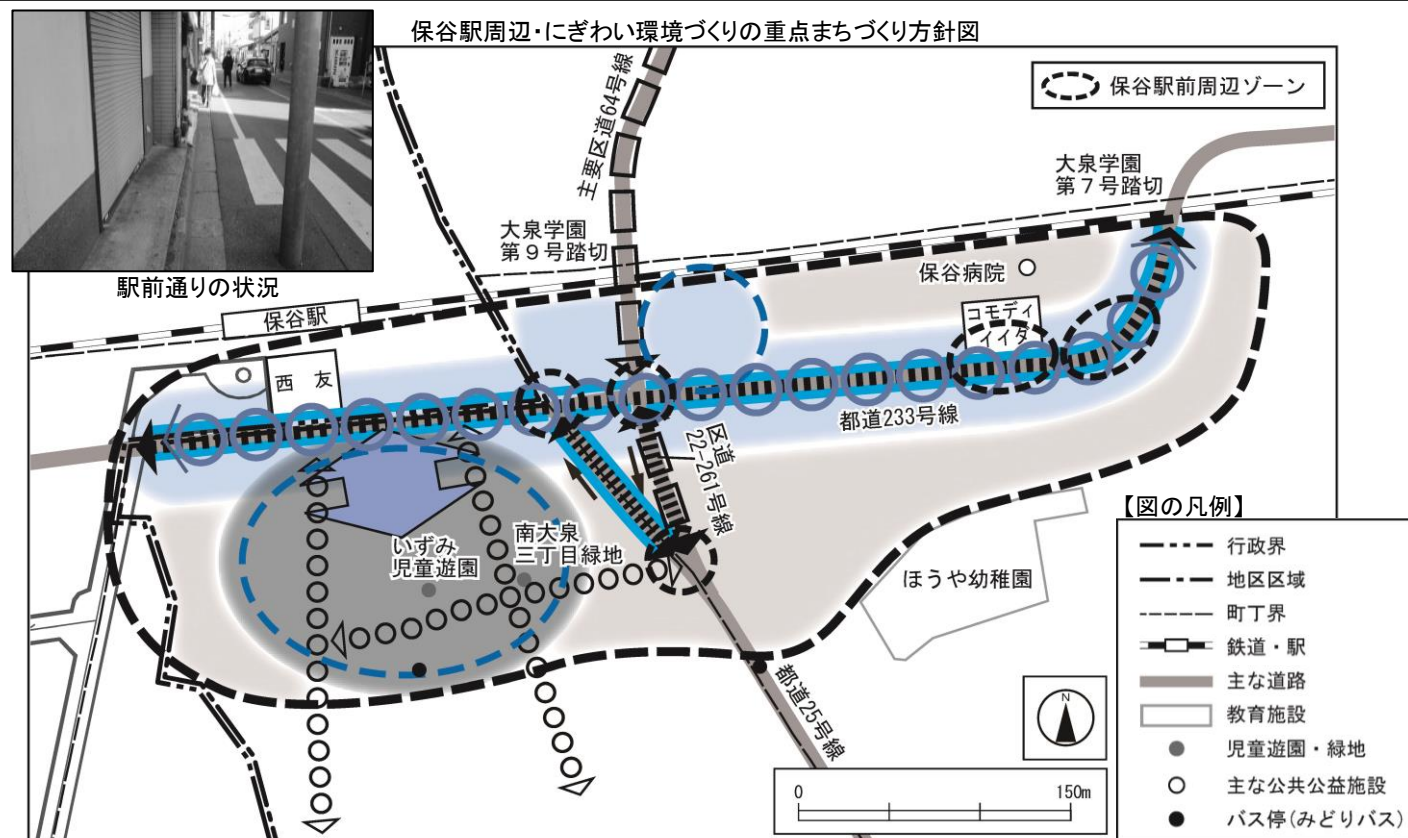


# まちづくり提言書の内容

## 保谷駅周辺・にぎわい環境づくり

にぎわいのある・歩いて楽しい駅前商店街づくり

商店街を形成する駅前通りは、歩道がなく、歩行者の交通安全の確保は急務の課題となっています。区西部地域を東西に結ぶ放射7号線や補助156号線の整備により、駅前通りの交通量は減少すると考えられます。今後は、周辺都市計画道路の整備状況を見据えて、駅前通りの道路空間のあり方や駅前商店街のあり方（線的な商店街から面的な広がりのある商店街へ）を見直していく取り組みが望まれます。



### 【方針の凡例】

#### 方針1：駅前通り等の安全・快適な歩行環境づくり

- 駅前通り(都道233号線)等の交通安全対策の促進
  - 駅前通り等の交通安全対策
  - 南北方向の主要区道等の整備促進
  - 主要な生活道路の環境改善
  - 横断歩道の設置、交差点の改善、見通しの改善
  - 車の出入りの適切な誘導
- 補助156号線の整備を見据えた駅前通りの歩行空間の確保
  - 壁面後退による歩行空間の確保
  - (一方通行化による歩行空間の確保を含む)

#### 方針2：にぎわいがあり、親しみのもてる商店街づくり

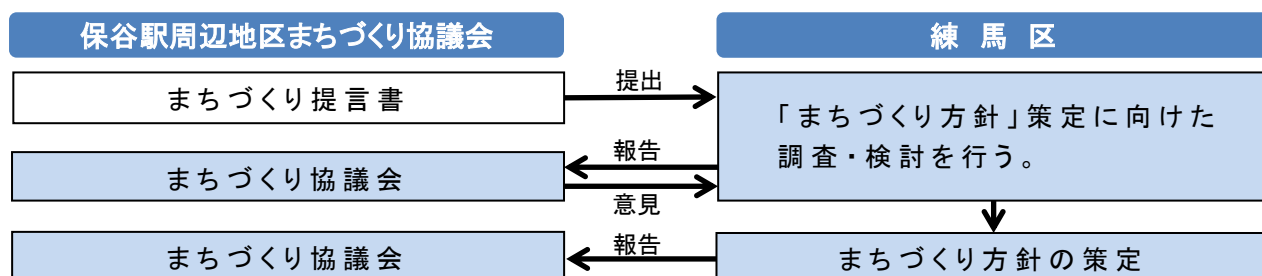
- まちの交流の場づくり
  - まちの交流の場づくりゾーン
- 駅前通りの歩行空間の確保に併せた魅力ある道路空間の整備
  - 統一感のある道路のデザインの整備

#### 方針3：南大泉の玄関口にふさわしい統一感のある街並みづくり

- 駅前通り等の壁面後退のルールづくり
  - 壁面後退ルールの検討区間(壁面後退による歩行空間の確保)
- 駅前地区の良好な街並み形成に向けたルールづくり
  - 商業地ゾーン
  - 横丁ゾーン
  - 住宅地ゾーン

## 今後のまちづくり

提言書の提出は、本地区のまちづくりのスタートと考えています。協議会では、今後とも地区の皆様のご協力をいただきながら、安全・安心、人にやさしいまちを目標に活動を進めていきます。



＜問い合わせ先＞ 保谷駅周辺地区まちづくり協議会事務局  
練馬区 都市整備部 西部地域まちづくり課  
直通電話：03-5984-4751 担当：酒井、尾上、羽成

【発行】保谷駅周辺地区まちづくり協議会

# 保谷駅周辺地区まちづくりニュース

平成29年3月

## 「まちづくり提言書」を練馬区に提出しました!!

平成29年2月14日、保谷駅周辺(南大泉三～六丁目)の商店会、町会、小学校PTA、消防団からの推薦会員と公募会員により構成される保谷駅周辺地区まちづくり協議会(以下「協議会」という。)では、「保谷駅周辺地区まちづくり提言書」(以下「提言書」という。)を練馬区に提出しました。

この提言書は、平成27年9月の協議会発足以来、「安全・安心、人にやさしいまちづくり」に向けて検討を重ねてきた成果を取りまとめたものです。次のページ以降に、主な提言内容を掲載します。

また、練馬区公式ホームページ(<http://www.city.nerima.tokyo.jp/>)の「保谷駅周辺地区のまちづくり」内には、提言書(概要版)が掲載されています。まちづくりの課題やまちの将来イメージなど、本紙には掲載しきれなかった内容もございますので、是非ご覧ください。

協議会では、提言内容の実現に向けた取り組みを練馬区に働きかけるとともに、今後も生活拠点にふさわしいまちづくりの検討を進めていきます。

### 会長のあいさつ

この提言書は“この地区に住んでいて良かった、これからも住み続けたい”と思えるまちを目指して、私たちの思いを形にしたものです。練馬区が、私たちの思いを込めたこの提言書を活かして、今後のまちづくりを推進してくれることを願います。

協議会会長 稲垣重雄



提言書提出の様子



第9回協議会の様子

## 保谷駅周辺地区まちづくり協議会の開催状況(第7回～第9回)

### 第7回協議会

開催日時:平成28年10月3日(月)  
出席者:25名  
＜ワークショップの主旨＞  
重点まちづくり提案の検討  
共通の提案事項の調整

### 第8回協議会

開催日時:平成28年11月21日(月)  
出席者:18名  
＜ワークショップの主旨＞  
重点まちづくり方針の確認  
今後のまちづくりの検討  
まちづくり提言書案の確認

### 第9回協議会

開催日時:平成29年2月14日(火)  
出席者:19名  
＜協議会の主旨＞  
まちづくり提言書の策定と提出  
今後のまちづくりについて

# まちづくり提言書の内容

## 道路・交通環境づくり

踏切における歩行者や自転車利用者に対する安全対策と通過交通に対応した道路整備、バスの利便性向上の検討及び補助156号線沿道まちづくりの推進

西武池袋線の3つの踏切に自動車や自転車、歩行者の交通が集中しています。保谷駅南口の駅前通りなどへ通過交通が流入し、歩行者などの安全性の確保が大きな課題となっています。

踏切や道路において、問題となっている箇所や路線に対しては、実現可能な対策による改善が必要です。今後は、補助156号線の早期整備により地区内の通過交通の分散を図り、地区の安全性を向上させることが望まれます。そのため、補助156号線の整備を見据えた沿道まちづくりを推進する取り組みが望まれます。

## 住まい・住環境づくり

地区の良好な環境を支える農（生産緑地）の維持と活用

保谷駅に直近して広がる農地が地区の大きな特徴であり、地区にみどりのうるおいを与えています。良好な住環境を支えているこれらの農地・農業の維持が大きな課題となっています。

地区において、農地は、「みどりの豊かさを感じさせる環境」、「災害時への安心感を与えるスペース」、「子どもたちの体験学習の場」、「地区のコミュニティを育成する場」などとしての役割を担ってきました。

この農地を「個人の財産のみならず、地区の重要な資産」として維持・保全し、その多面的な機能を再度見直し活用していく取り組みが望まれます。

